

「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」事前聴取意見

*会議開催にあたり、諮問内容に関し、事前に聴取した意見を類似のカテゴリーごとに集約しています。

①子どもが参画できる防災の取組として集約した意見

No.	意見内容
1	災害時において中学生の力は大きい。区から中学校に対して、年に一度は自治会と日程を調整して、防災訓練を実施するなどの取組を進めてほしい。
2	避難所活動において、人手が少ない時に中学生に手伝ってもらえる機会が想定できる。その際に、避難所に関する予備知識があるのとないのとでは、避難所の運営に差が出てくると感じた。
3	中学校での防災講座は「自分の地域で災害が発生したらどうなるか」を具体的に想像できてこそ、効果のある取組になると思う。そのためには自分の地域を知ることが大切と考える。
4	また、災害時に「すぐ逃げられる自分」を確立するために、家具を固定しておくなど、普段からすべきことや今すぐ実践できることを伝えるのも必要かと思う。
5	中学生が防災講座で学んだことを小学生に防災を伝える機会を設けるなど、アウトプットする機会もあっていいと考える。インプットばかりでは定着しないと思う。防災に関してはアウトプットする機会がない。授業を受けた後では何とかしなくては、と思っていたのに、1週間たてば何のことだったかとなっていると思う。
6	(防災講座を)定期的に全中学校で開催してほしい。安心、安全なまちづくりは小学校から取組めばよいと考える。
7	(中学校での防災講座は)取っ掛かりとしては良い内容であるが、次の段階では災害が起こった時、中学生として、家庭や地域で何ができるかという役割を具体的に考えられる講座を実施してほしい。

②集合住宅における防災の取組として集約した意見

No.	意見内容
1	(グランアベニューの防災会の) 素晴らしい取組を視察させていただいて感心した。このような取組を他のマンションにいかに応用できるかが大きな課題だと思う。
2	マンションの全世帯が協力すべきことだという認識を、いかに持たせることができるかがむづかしい問題だと考える。その点、グランアベニューでは(防災の活動費を) マンション管理費や修繕積立費から支出するのはとても良い方法だと感じた。
3	避難所に行くほうが危ない時もあると思う。水害の時、高層マンションに住む人は学校(避難所)に行くより上の階に上がったほうが良いのでは。
4	グランアベニューの地震災害、水害も含めた幅広い防災対策活動に感服した。子どもからお年寄り、障がい者一人ひとりの暮らしを見守り、支えあうための日ごろからのコミュニケーションをとる仕組みづくりが必要と感じた。
5	自分が住んでいるところの弱点(設備、人、地域)を把握し対策を講じる必要がある。(グランアベニューは) 建物が崩壊しないと想定し、在宅避難を前提に対策をすすめてきた。
6	災害時、避難所が混乱しないよう、在宅避難できるところは在宅避難の準備を平常時に行っておくことが大切と考える。
7	防災対策は、戸建住宅と集合住宅とでは異なる。一緒に防災訓練を行うより、実態に合わせてそれぞれの状況に応じた防災訓練を行うべき。

③北区全体での防災意識の向上のための取組として集約した意見

No.	意見内容
1	校区の備蓄倉庫に避難所設営用（仕切り・ベッド設営）の段ボールの備蓄が必要。
2	避難所での運営も大切であるが、避難所に入れるのは自宅が全壊するなどの被害が大きい方が優先になるため、食料や物資の配布が混乱なくできるような取り決めや、自宅での防災についての知識をより多くの人に知ってもらう方法を審議検討するべきと思う。
3	自治会が取組んでいくべき自主防災活動を審議検討する。 国や自治体は「地区防災」について取組んでいる。北区でも自治推進課が助成している、校区とNPOが連携した防災活動の取組をPRし、意識醸成に役立てる。
4	いかににより多くの北区の住民が防災問題にふれる機会を増やすかを検討審議していく。
5	地域の人や地域コーディネーターと協力しながら地域で知ってほしい土地の歴史・特性・防災を子どもに伝えていくことが必要。子どもたちに伝えていくことが防災に理解ある社会をつくる、最短で確実な方法だと思う。その取組を10年20年続けられれば、防災に理解のある大人が育ち、次世代に受け継がれていくと思う。
6	（北区まちづくりアンケートの結果においても）防災・防犯に関する取組に不満を持っている人が多いと思うので検討の必要があると考える。
7	災害に強いまちづくりの実践計画の最初の一步として、街歩きを計画する。 自分たちの住むまちをあらためて注意して歩き、まちの中の危険個所や防災設備・史跡などを探すことで災害を他人事ではなく、自分も関係することと認識し、防災意識を高めて行動につなげる。 ○町別に地域の状況を知る。 ○防災への関心を高める。 ○子どもたちを中心に地域歩きをすることで、情報収集能力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を養う。 ○地域の問題点を発見し、その解決策を提案する。 ○災害時の協力体制を作る。 ○子どもたちが地域の重要な防災の担い手となっていくためのきっかけとなる。
8	防災訓練等、関心が無いか、忙しいのか若い世代の参加が少ないように思う。日曜参観に取入れるなど保護者と子どもと一緒に訓練を体験できるなどの企画があればよいと考える。
9	商業施設と連携した防災訓練なら様々な世代の参加者が期待でき、商業施設の企業の訓練にもなり、人が集まることで商業施設の活性化につながるなど、訓練という重たい雰囲気ではなく多くの人が気軽に身近に体験できるのではないかと考える。